

Le Lys Blanc

✧学長ごあいさつ✧

創立 60 周年記念イベントのことなど



白百合女子大学
学長 猪狩 友一

2025 年は本学が 4 年制大学になって 60 周年の記念の年です。10 年前の 50 周年のときのように盛大ではありませんが、いくつかのイベントも企画されています。既に終わったものとしては、同窓会主催の創立 60 周年記念ミサが 5 月 24 日(土)にチャペルで行われました。また、カトリック教育センターが中心となった創立 60 周年記念ミサも 6 月 26 日(木)に行われました。いずれもマ・スール方、同窓生をはじめ、多くの参列者があり、荘厳な中にも活気あるミサになりました。

右に掲げたのは、カトリック教育センター主催ミサで使用されたポスターです。クラシック音楽のレコードジャケットのような荘厳な雰囲気的设计で、3 本の百合の花と「60」という数字が印象的に表現されています。注目したのは、3 本の百合のうち真ん中がまだ蕾で、まもなく花開こうとしている様子を描かれていることで、デザイナーの方の意図はわかりませんが、これは 60 周年を迎えた白百合女子大学が、新たに発展することを示しているのかもしれない、と思いました。もしそうだとすれば大変ありがたいことで、将来への希望と期待が表されたポスターと言えるでしょう。

これから行われるイベント等では、白百合祭の期間(10 月 26 日)に、ルイ・ショーヴェセンター等が実施主体となって記念講演会が予定されています。また、同窓会関連では、観劇会、函嶺白百合ツアー、秋夜会などが企画され

ている他、12 月 6 日には「行ってみよう、還暦の母校へ!」と題した記念イベントが学内で行われるとのことです(なるほど、人間に喩えれば「還暦」を迎えたことになるのですね)。

なお、60 周年を意識したわけではありませんが、本年度より、従来全学教養教育と称していた部分を「全学基盤教育」と名称変更し、新たな教員組織として、ライフ・リテラシー教育センター、グローバル言語・文化教育センター、情報教育センターの 3 センターを立ち上げました。各センターとも、今後の本学の教育について重要な役割を担っています。今はまだ蕾かもしれませんが、これから大きく美しい花を咲かせていけるよう、大学として大切に育てていきたいと思います。



2025年
8月20日 発行

Contents

創立60周年記念イベントのことなど	
学長 猪狩友一	1
創立60周年・新しい取り組み	2
全学基盤教育	3
新任教員ごあいさつ	4
サバティカル報告	5~6
トピックス	7
キャリア・その他	8

創立60周年・新しい取り組み

白百合女子大学は、創立60周年を迎えました

1696年	シャルトル聖パウロ修道女会、フランスの一寒村ルヴェヴィルで活動始める。
1727年	最初の海外宣教女が、南アメリカのギアナで活動を開始する。
1878年	3人のフランス人修道女が来日、函館に修道院を創設。
1881年	東京・神田に学校を新設。
1898年	校名を「高等女子仏英和学校」とする。
1910年	校名を「仏英和高等女学校」に改める。
1913年	神田の大火で全施設を焼失。
1923年	関東大震災で再び全施設を焼失。
1927年	九段（現白百合学園所在地）に新校舎を建設し、移転。
1935年	校名を「白百合高等女学校」に改める。
1946年	「白百合女子専門学校」国文科を設立。
1947年	英文科を増設。
1950年	学制改革に伴い、「白百合短期大学」となる。
1958年	仏文科を増設。
1965年	現在地の調布に移転し、4年制大学を設立。
1978年	日本における教育施設創立100周年を迎える。
1983年	司書・司書教諭課程を開設。
1985年	児童文化学科を増設。
1988年	情報科学講座を開講。
1990年	大学院文学研究科発達心理学専攻および児童文学専攻（修士課程）設置。
1992年	大学院文学研究科発達心理学専攻（博士課程）設置。
1994年	大学院文学研究科国語国文学専攻およびフランス語フランス文学専攻（修士課程）増設。 国文学科を国語国文学科に、仏文学科をフランス語フランス文学科に、英文学科を英語英文学科に学科名称変更。
1995年	大学院文学研究科児童文学専攻（博士課程）および英語英文学専攻（修士課程）増設。
1996年	日本語教育副専攻を開設。
1997年	大学院文学研究科言語・文学専攻（博士課程）増設。児童文化学科を児童文学・文化専攻と発達心理学専攻の2専攻に分ける。
1999年	保育士養成課程を開設。
2001年	大学院文学研究科発達心理学専攻（修士課程）を「発達心理学コース」および「発達臨床心理学コース」の2つに分ける。
2005年	幼稚園・小学校教諭免許取得課程を開設。社会人生涯学習プログラムを開講。
2011年	グローバルビジネスプログラム開設。
2014年	キャンパス内のめぐみ荘が登録有形文化財に登録。
2015年	大学創立50周年。
2016年	2学部（文学部、人間総合学部）6学科への再編成（2016年4月開設）。
2018年	公認心理師カリキュラムに対応。
2022年	白百合数理・データサイエンス・AI教育プログラム開設。
2023年	ホスピタリティ・マネジメントプログラム開設。
2024年	登録日本語教員養成機関として登録。

主体的な学びを支えるしくみ ～領域横断型チャレンジ履修とWアドバイザー制度～

文学部では、学生が自分の興味や関心に応じて柔軟に学びを組み立てられる「領域横断型チャレンジ履修」を導入しました。これは、各学科の専門教育に加え、文学部共通の20の履修プログラムから、将来の進路や課題意識に沿って自由に学びを広げていける制度です。たとえば「舞台芸術」「ホスピタリティ・マネージメント」「文芸創作」など、多様な分野にまたがる実践的な学びが用意されています。

さらに、「Wアドバイザー制度」によって、担当教職員が学習面とキャリア面の両面から個別にサポートします。1年次から4年次まで、ステージに応じた丁寧な面談を行うことで、学生が「何になりたいか」だけでなく、「どんなふうに生きたいか」を自分の言葉で考えられるよう支援しています。こうした取り組みを通じて、文学部は「人間を育てる学び」を実践しています。学生が自ら考え、選び取り、歩み出す力を育むことをめざしています。

4つの教育センターによる 新しい基盤教育

2025年度から、全学教養教育部門を再編し、カトリック教育センターに加えて新たにライフ・リテラシー教育センター、情報教育センター、グローバル言語・文化教育センターを設置し、4つの教育センターによる新しい全学基盤教育がスタートしました。

今回の改編のねらいは大きく次の3つです。

第一に、情報教育センターを独立させることで今後ますます必要とされるデータサイエンス、AI教育を充実させ、将来を担うAIデジタル人材の育成を目指します。

第二に、外国語科目をグローバル言語・文化教育センターに集約し、様々なグローバルプログラムを提供することで国際的な視野をもったグローバルコミュニケーションを育てます。

第三に、ライフ・リテラシー教育センターでは、従来の教養教育の枠を超えて、生涯にわたって学び続け、自らの人生と社会の課題に向き合う力を育みます。

カトリック教育センターによる建学の理念と直結する宗教科目とあわせて、4つの教育センターが時代のニーズにマッチした基盤教育を提供していきます。

全学基盤教育

グローバル言語・文化教育センター

グローバル言語・文化教育センターは「国際的な視野を持ったグローバルコミュニケーターを育てる」をモットーとして、次のような様々な活動を行っています。

【グローバル言語・文化科目、プログラムの運営】

全学の学生を対象に「複言語・複文化主義」に基づく外国語教育を展開し、英語にとどまらない複数の言語を楽しく学ぶカリキュラムを提供します。外国語力を基礎に、グローバルビジネスプログラム、ホスピタリティ・マネジメントプログラム、カルチュラルリテラシープログラム、舞台芸術実践プログラムなどを通して国際的に活躍するグローバルコミュニケーターを育てます。

【留学・国際交流プログラムの拠点】

留学、海外研修、海外インターンシップなど全学部・全学科の学生の海外での学び・活動を支援します。また、各種の国際交流プログラムを企画・運営し、留学生との交流など学内での国際交流の場を提供しています。留学や国際交流を希望する学生がワンストップでなんでも相談できる窓口です。いつでも気軽に相談に来てください。



**GENERAL EDUCATION
at SHIRAYURI UNIVERSITY**

カトリック教育センター



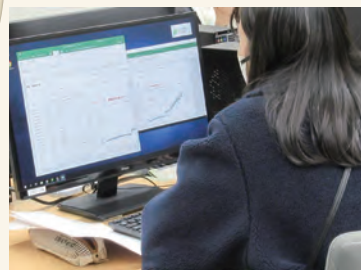
カトリック教育センターは、2025年度より全学基盤教育部門を構成する4つの教育センターの一つという位置づけになりました。事務室の場所(2号館1階)や業務内容の変更はありません。スタッフは事務職員が専任1名・非常勤1名、教員が専任3名・兼任2名・非常勤13名です。宗教学科目、修養会、宗教行事等の運営のほか、セントポール・コイノニアルーム(2号館2階)を拠点として学生・卒業生・教職員が協力しあいながらキリスト教精神に基づく種々の活動を行っています(セントポール・クワイアの諸活動、チャリティバザー、チャリティコンサートなど)。宗教学科目は今年度から新カリキュラムがスタートしました。火曜日お昼のミサは淳心会司祭カブندی M. オノレ神父の司式で執り行われています。センター報「おどうの木」を7月と12月に、St. PAUL KOINONIA LETTER(コイノニアだより)を3月に発行し、活動内容、関連情報、メッセージを発信しておりますので、ご覧いただければ幸いです。

ライフ・リテラシー教育センター

文字を読み書きする能力(リテラシー)があれば、書物から知識を得て自分の世界を広げられるように、人生(ライフ)を豊かに、そしてしなやかに生きるための基礎的な力が「ライフ・リテラシー」です。「Life(ライフ)」に込められた三つの意味、「いのち」の尊さ、「人生」の目的や意義、そして「生活」の質をどう高めていくか、それを生涯通じて追求できる力を4年間の学びを通して育みます。

従来の教養科目に加え、「ライフ・リテラシー入門」(初年次必修)、「ライフ・リテラシー応用」、「信頼の作法」、「教養としての日本語」、「身体を考える」などのライフ・リテラシー科目群と、「女性と起業」、「ワークライフ論」、「ライフマネジメント」などのキャリア関連科目を提供しています。

ライフ・リテラシーとは、単なるスキルや知識を超え、人生そのものの洞察を深める力です。それは複雑な世界を生き抜く羅針盤であり、変化の中で自分を保つ力でもあります。私たちは、このライフ・リテラシーを通じて、学生一人ひとりが人生を豊かにし、他者とつながり、社会に貢献できる人に育つことを願っています。



情報教育センター

情報教育センターは、ICTの基礎からプログラミング、情報ネットワークとセキュリティ、データ分析とAI活用、IT資格の取得まで、学生の学びを支援しています。

カリキュラムを「基礎力」、「分析力」、「開発力」、「応用力」に分類し、個々のスキルに合わせて段階的に学ぶことができるように組み立て、「白百合 数理・データサイエンス・AI教育プログラム」(文部科学省認定プログラム)の履修によって、正しい知識や基礎的なリテラシーを習得できます。さらに情報系の国家試験、ベンダー系IT資格のための授業を開講し、MOS、ビジネス統計スペシャリストなどのCBT試験を学内で受検可能です。情報教育センターでは、学生がAIについての正しい知識や基礎的な統計知識を身につけ、データを活用するうえでのモラルや倫理を理解し、データを正しく読み、伝える力を身につけて、日常や社会において活躍できるよう、情報教育の内容の充実に努めています。

グローバル言語・文化教育センター 教授 遊佐 重樹

ホスピタリティと学問の奥深さを 皆さんと

今年度よりグローバル言語・文化教育センターに着任し、総合英語やホスピタリティに関する科目を担当しています。専門は応用言語学(英語教授法)で、これまでは教職課程の英語や観光文化論を教えてきました。

私はいくつかの職を経験した後、教員になりました。漠然と海外に憧れるだけで勉強に関心なかった私が、旅行会社で働いていた20代半ば、突然、生まれて初めて勉強したくなり、天啓を得たようにアメリカ留学を決意しました。そこから私の人生の冒険旅行が始まりました。

函館に生まれ、大阪で就職し、アメリカ・カリフォルニア州に留学し、仙台で大学教員になった後、この度緑豊かなこの地で新生活を始めた次第です。未熟者ゆえ苦労は多々ありましたが、友人や恩師に恵まれ、「生きているとはこういうことか」と思える景色も目にしました。学問は思いもよらない所に自分を連れて行ってくれるものです。知識を得る楽しさや学問の奥深さと醍醐味を、これから学生の皆さんと分かち合えたらと願っております。

白百合女子大学の教育に貢献できるよう誠心誠意努める所存です。どうぞよろしくお願い申し上げます。



文学部英語英文学科 教授 坂本 ひとみ

生涯学び続ける教師をめざして

この春より、文学部英語英文学科に着任いたしました坂本ひとみと申します。

私は、大学では主専攻としてイギリス研究、副専攻として英語の教職を学び、大学院では英文学を研究しておりました。が、大学院生のとき、ドキュメンタリー映画やテレビ番組の作成に関わることになり、ネイティブ・アメリカンの世界に魅入られてしまい、教員になってからも、大学が休みに入るとすぐに彼らの保留地に出かけていくという生活を20年以上して参りました。これが、私が異文化理解やエコロジーに関心を抱ききっかけとなり、外国語教育の究極の目的は、多様な民族が平和的な共存関係を築くこと、地球規模の課題を世界の人々と共に解決することにあると思うようになりました。

本学では主として教職課程の科目を担当し、明朗活発で思いやりのある学生さんたちと「持続可能な社会の創り手」を育成するための英語教育の実践と研究に取り組んでおります。後期にはフェアトレードをテーマとした英語のポスター発表を行い、ケニア紅茶を試飲して頂くイベントも企画しております。私も彼女たちとともに生涯学び続ける教師として、さらに前進していく所存でございます。



人間総合学部児童文化学科 准教授 トミヤマ ユキコ

マンガ研究者として、創作指導者として

この春から人間総合学部児童文化学科のメンバーになりましたトミヤマユキコです。フリーのライターをやりながら、マンガの研究者、大学教員として活動しています。

前任校は山形にある東北芸術工科大学です。美大としてはちょっと珍しい「文芸学科」というところで、創作指導をしたり、編集系の授業を受け持ったりしていました。

白百合では学科名にもなっている児童文化に関する学びをマンガ研究者として大いに盛り上げていければと思っております。かつてマンガと言えば「マンガばかり読んでないで勉強しなさい!」と言われるのが定番だったわけですが、いまはマンガばかり読んでいると研究者になれたり博士号が取れたりします。少子高齢化で教育・研究にとっては厳しい状況が続いていますが、学生の中から未来のマンガ研究者が出てきてくれたらうれしいです。ちなみに、児童文化学科には制作・創作をする学生さんもいるとのこと。美大時代に培ったものが役に立つこともありそうで、そちらもたのしみです。



人間総合学部初等教育学科 教授 山中 ともえ

次世代の子供を育成する教職の楽しさを伝えたい

この4月より、初等教育学科に着任いたしました。

これまで、東京都公立中学校の教員、東京都教育委員会、調布市内の小中学校校長と長く教職に関わってまいりました。その間、一貫して特別支援教育に携わり、様々な経験をさせていただきました。このような経験を少しでも本校の学生に還元し、次なる世代の子供を育てていく大切さと楽しさに気付いてもらえたら、と考えています。

私は幼い頃からこの近隣で育ち、この大学の建物を外からよく眺めていました。当時は周囲に大きな建物がなく、仙川駅も簡素なものでした。三鷹市内の小中学校を卒業し、初めて教員として着任したのも三鷹市内の中学校でした。校長として勤務したのは調布市内の小学校であり、こちらの大学とのご縁を感じる次第です。

この大学に一步足を踏み入れると、周囲とは異なる安心感を覚えます。整備された緑の多い自然環境と建学の精神に支えられた校風の中で深く学び、自分の途を見付けて飛び立っていけるよう、私も力を尽くしたいと思います。どうぞ、よろしくお願いいたします。



サバティカルを有難うございました！

文学部国語国文学科
教授 井上 隆史

三島由紀夫の誕生日は1925年1月14日です。三島生誕100年を記念して私は実行委員会を組織し、駒場の日本近代文学館での記念展覧会や、坂東玉三郎丈を迎えてのトーク・ショーなど様々なイベントを開催しました。おかげさまで大きな反響を呼び、各種メディアでも取り上げられました。白百合女子大学には、さまざまな形で助成、ご協力いただきまして、心より御礼申し上げます。現在進行中の企画もありますので、またご案内致したく存じます。

サバティカル中は、三島イベントの準備と運営で、長期の海外滞在は出来なかったのですが、ストックホルムでノーベル文学賞について、中国の長春で草稿研究とAIについてのシンポジウムがありました。スウェーデンでは白夜というものを始めて経験し、実に素晴らしい思い出となりました。上海と沖縄で調査旅行も行いました。このような機会を与えていただきまして、有難うございました。



▲写真は「ノーベル・ミュージアムにて」

フランス・ブザンソンでの Kamishibai (紙芝居) 体験

文学部フランス語フランス文学科
准教授 大塚 陽子

幼いころ、紙芝居が大好きでした。通っていた保育園では週に1度、紙芝居の日があって、毎回夢中になったものです。そんな紙芝居の魅力をフランスで再発見することになるとは！

2017年に中井珠子先生から小学生フランス語教室「プチテコ」を引き継いだものの、児童外国語教育に関する知識をほとんど持ち得ていなかった私は、サバティカルをその学びにもあてたいと、フランスのブザンソンにある、フランシュ＝コンテ大学・応用言語学センターで研修を受けることにしました。研修仲間は、チュニジア、南アフリカ、コロンビア、イラン、トルコ、スリランカ、リトアニアなどでフランス語を教える現役教員です。研修中は児童フランス語教育に関する情報交換をし、複言語・複文化主義に基づいた活動や教材について学びました。刺激的で楽しく、そして平和な時間でした。そのような中、注目すべき教材として取り上げられたのが Kamishibai だったのです。センターには紙芝居の Butai (舞台) もあり、受講生は交代で上演体験をしました。紙芝居の国出身ということで、私がトップバッターを務めることになったものの、これがとても難しく、真冬のブザンソンで大汗をかく羽目に！一番上手だったのはイラン人のザラです。彼女の語り口にみんなが魅了されました。

それから7ヶ月。オリジナル紙芝居を作って子どもたちと楽しむ！と張り切っていたザラの、フランス語でのやさしい語り口に、イランの子どもたちが心置きなく夢中になれるよう、平和を祈らずにはられません。



▲フランシュ＝コンテ大学 応用言語学センターで研修仲間と共に

少しの勇氣とたくさんの収穫

人間総合学部初等教育学科
教授 石沢 順子

現在の研究テーマである STEAM 教育を取り入れた健康教育プログラムの開発と、子どもの身体活動促進に関する情報収集のために、国内外の学会や研修会に参加し、保育・教育現場や科学教育施設等の実地調査を行いました。

その一環として、4カ国6か所(シンガポール→メルボルン→ケアンズ→タイ→シドニー→フィンランド)を100日間で巡る研究旅行に挑戦しました。見知らぬ海外の研究者でしかない私をどこでも歓待してくださり、園や学校等での子どもたちとの交流はもちろん、子ども専用施設の特別見学や森林学習での植樹体験、指導者養成に携わる教授からのレクチャーなど、勇氣を出して「やってみたい」と伝えたことはほぼ全て、紹介しきれないほど多くの貴重な経験をさせていただきました。

フィンランドのラップランド大学では、異文化交流を兼ねて、各国からの交換留学生を対象に、折り紙を使った STEAM 体験ワークショップを実施しました。その際、ホストをくださった Satu-Maarit Korte 先生が、来年本学を訪問される予定です。

これらの経験を通して、国内外の繋がりが増えたことも大きな収穫となりました。学内の教職員の皆様をはじめ、多くの方々からいただいたサポートに心から感謝し、これからの教育・研究活動に繋げたいと思います。

※ STEAM (Science, Technology, Engineering, Arts, Mathematics)



▲ラップランド大学での折り紙を使った STEAM 体験ワークショップ

国際教育の今と未来：サバティカルを通して得た学び

グローバル言語・文化教育センター

講師 スミス セシリア

サバティカル期間中、私は英語による授業(EMI: English-Medium Instruction)について、学生のグローバルな視野や主体性、異文化理解能力の育成にいかん効果的に活用できるかを研究しました。本研究は、学生を中心に包摂的な学習環境を構築し、多様性を尊重しながらグローバル・コンピテンスを高めるという、私が長年追求してきた教育理念に基づいています。日本の高等教育における国際化政策と、現場での授業実践の間に存在する課題に注目し、日本全国の大学シラバスや政策文書を収集・質的に分析しました。

その結果、グローバル・コンピテンスがどのように教育課程に取り入れられているか、あるいは十分に反映されていないかが明らかになりました。研究の成果として、内容知識、言語習得及び異文化理解を包括的に統合するEMI理論モデルを再構築しました。この新たな枠組みは、本学の「国際社会文化コース(ISC)」とも深く関連しており、よりダイナミックかつ包摂的な学習環境を創出するための具体的な指針として活用可能です。

さらに、教育・研究の両面を充実させることを目的に、オーストラリアおよび東南アジアでフィールドワークを行いました。メルボルンやシドニーにある移民・多文化主義・ナショナリズム関連の博物館、そしてタイ、カンボジア、ベトナム、マレーシア、インドネシアに所在する歴史的・文化的遺産や植民地史関連の資料館を訪問しました。これらの視察経験は、3年生ゼミ「アジアを紹介する」の教材開発に活かし、より実践的かつ多角的な学習を可能にしています。

学会活動としては、ASIA TEFL(タイ)やCamTESOL(カンボジア)において研究成果を発表したほか、オーストラリアやタイで開催された歴史・教育関連の国際会議にも積極的に参加しました。また、インドネシアでは講義を行うとともにパネルディスカッションに登壇し、現地研究者とカリキュラム改革をテーマに意見交換を行い、新たな国際共同研究も開始しました。

これらの活動を通じて、EMIやカリキュラム設計における国際的な動向への理解を深めるとともに、アジア各国の研究者や教育関係者とのネットワークを広げることができました。このような貴重な機会をいただけたことに、心より感謝申し上げます。同時に、学際的な教育研究が学科の枠にとらわれることなく、より広く理解され、大学全体として学問の自由が大切にされる環境が築かれていくことを、心から願っております。



創立記念ミサが行われました

本学が創立60周年を迎えることを記念し、2025年6月26日に高山貞美神父司式による創立記念ミサが行われました。本学の原点であるシャルトル聖パウロ修道女会の歩みを振り返りながら、多くの方々に支えられ今日があることを感謝し、共に祈りの時間を持ちました。



公益財団法人大学基準協会による 大学評価(認証評価)結果

白百合女子大学は、公益財団法人大学基準協会による大学評価(認証評価)を受審し、同協会の大学基準に適合していると認定されました。

認定期間は、2025年4月1日から2032年3月31日までとなります。



ホームページリニューアルを実施しました

白百合女子大学ホームページを2025年4月1日にリニューアル公開いたしました。

今回のリニューアルでは、必要な情報にアクセスしやすいようにサイト構造を整理するとともに、大学の魅力を視覚的に伝えるデザインに一新しました。さらに受験生への情報発信を一体的に行えるよう「受験生のための情報サイト アンシャンテ」を統合しました。新しいホームページのもと、今後もわかりやすい情報発信に努めてまいります。



ニューカレドニア大学との国際シンポジウム開催

2025年1月12日、国際シンポジウム「歴史の共有と協働 — ニューカレドニア、日本、フランス — 移民史、協働教育、そして5・13事件」が開催されました。本シンポジウムは、ニューカレドニア (NC) 大学との協働プロジェクトの一環となります。

第1部で、2024年5月に勃発した暴動とその背景を、初代在ヌメア日本国領事事務所長増田是人氏と NC 大学ナターシャ・ストレンベック氏がお話くださいました。第2部では、日本人移民などの歴史について、ストレンベック氏、関西学院大学の津田睦美氏、二村淳子氏、明治大学の鶴戸聡氏から研究発表とコメントがありました。第3部では、NC 大学と実施している、オンライン国際協働学習 (COIL) の様子と成果に関して、ガルニエ真理氏とアリア・デムナチ氏の報告がありました。

参加者は80名ほどとなり、会場との議論も活発で、想定をはるかに上回る大盛況となりました。今回の催しが、両国の相互理解に役立てたなら嬉しく思います。



ニューカレドニア大学学生13名の来訪



2025年1月29日、ニューカレドニア大学で日本語を学ぶ学生たち13名とナターシャ・ストレンベック氏が白百合女子大学フランス語フランス文学科を訪問しました。

まず現地の伝統的儀式クチュームを披露していただき、さらに伝統的なカナック編みの体験と現地に伝わる物語の披露をしていただきました。また、本学学生が書道の紹介を行い、みなさんのお名前を漢字で当て字にし、白百合生が見守るなか、一心に書道体験に取り組みました。

その後、本学の重要文化財であるめぐみ荘に移動して、茶道の会が催されました。建物の歴史や茶道の文化をフランス語で紹介した後、季節のお菓子とお抹茶をいただきました。本格的なお点前に、ニューカレドニアのみなさんも見入っていました。

交流会の後は、ニューカレドニア大学のみなさんが心を込めて準備してくださったお土産を白百合生ひとりひとりが受け取りました。ご訪問ありがとうございました。またお会いしましょう！ À bientôt!



2024年度「学生活動に関する顕彰制度」学長賞、学生活動奨励賞

本学では、本学の学生または本学学生で組織する団体が、その活動分野において他の模範となる成績を収め、または貢献した場合、それが学生や団体並びに本学の荣誉となるものについて顕彰を行っています。

2024年度は、10年ぶり2度目の学長賞と、学生活動奨励賞の2件に授与が決定し、2025年1月21日に表彰式が行われました。

<学長賞>

○菊川愛梨沙さん

(文学部フランス語フランス文学科卒(受賞当時4年))

第22回 MOS 世界学生大会への Excel 部門日本代表選出

自己研鑽のため受験した MOS 試験で満点をとったことがきっかけとなり、小論文と面接による選考を通過し、13,000人の中から日本代表に選出され、第22回 MOS 世界学生大会へ出場。得意な領域とは言えなかったが、PC 利用のために大学への登校時間を早めたり、遅くまで残ったりしながら、限られた環境の中で効率的な学習方法を模索し、勉学を続けた本人の努力とチャレンジ精神、また、得点だけでなく、人柄なども評価され、Excel 部門の日本代表1名に選出され、本学の名誉を著しく高めたことも評価し、学長賞を授与。

<学生活動奨励賞>

○迫間理紗さん

(人間総合学部発達心理学科卒(受賞当時4年))

学生活動・広報活動への積極的な参加と多岐にわたる大学広報への貢献

大学2年次から大学の入試広報スタッフとして活動をはじめ、オープンキャンパスは2年次から2024年11月までの間、

すべて参加。広報誌やHPなどへも掲載用原稿を数多く執筆し、2025年度版大学案内では学科紹介ページにも起用された。また、所属する学科の学会活動や母校での模擬授業のサポート等にも参加し、学科の魅力を紹介。4年次は学生が中心となって受験生に情報を発信する SNS の運用スタッフとしても積極的に活動。愛校心に溢れ、学内外に白百合の魅力を発信し続けた大学への貢献を評価し、学生活動奨励賞を授与。



▲左：迫間理紗さん、右：菊川愛梨沙さん

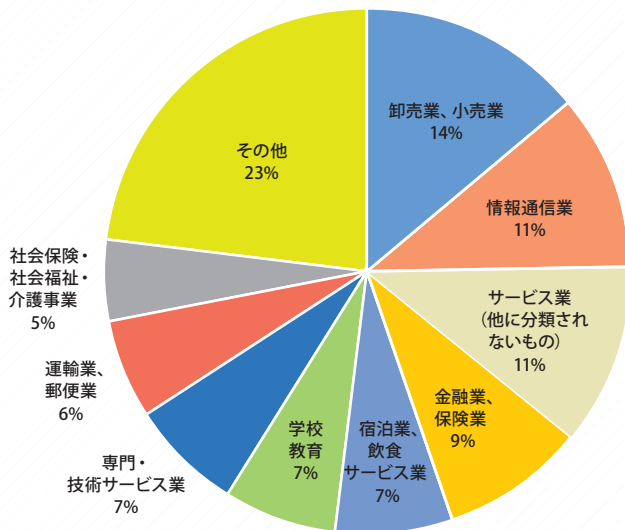
キャリア・その他

・・・2024年度（2024年9月、2025年3月）卒業生の就職状況とキャリア支援・・・

2024年度卒業生の就職率については、下記の結果となりました。

学部全体	国文	フ文	英文	児文	発達	初等
99%	97%	100%	99%	96%	100%	100%

就職先の業界別割合については以下の通りです。（学部全体）



卒業生の就職先は、JAL、ANA、東京エレクトロン、三井住友銀行、帝国ホテルなど業界を代表する企業のほか、幅広い業種・業界にバランス良く決定しています。

キャリア支援課では、様々な業界で活躍するOGをお招きしてガイダンスでご講演いただくだけでなく、企業の人事担当者による「業界セミナー」なども実施しています。また、内定を得た4年生が後輩のために自身の就職活動についてお話しして下さる「学生アドバイザー相談会」を今年も10月に予定しています。身近な先輩に質問することができ、就職活動を具体的にイメージできるおすすめのイベントです。ぜひご参加ください。

教員の出版物（2024年10月～2025年3月）

教員名	書名	種別	出版年	出版社
井上 隆史 (国語国文学科 教授)	21世紀のための三島由紀夫入門	共著	2025年2月	新潮社
菅原ますみ (発達心理学科 教授)	公認心理師ベーシック講座 感情・人格心理学	編著	2025年3月	講談社
	教育メディアの変遷とメディア教育の深化：放送100年	共著	2025年3月	NHK出版
眞榮城和美 (発達心理学科 准教授)	実践につながる教育相談	共著	2024年10月	北樹出版
石沢 順子 (初等教育学科 教授)	主体としての子どもが育つ 保育内容「健康」	分担執筆	2025年2月	北大路書房
土橋久美子 (初等教育学科 准教授)				
川口 潤子 (初等教育学科 准教授)	現代保育内容研究シリーズ9 現代保育と教育の理論と実践	分担執筆	2024年11月	一藝社

「三鷹ネットワーク大学」に正会員として加盟しました

三鷹ネットワーク大学は、「民学産公」が協働し、より豊かで安心できる市民生活の実現を目指す、三鷹市及びその近隣都市にある教育・研究機関と企業や団体等で構成される特定非営利活動法人です。本学は2016年度より「賛助会員」として参加してきましたが、2025年度より「正会員」となることでより一層、地域社会の一員としての役割を果たしていきます。

